

# 輸出事業計画

※申請者名：和牛マスター輸出拡大コンソーシアム、品目：牛肉

## 1. 輸出における現状と課題

### 【現状】

- ・神戸ビーフを代表とする国産和牛は、高品質・高度な衛生管理の面から、国際的に高い評価を受けている。
- ・輸出先国は、米国、EU諸国、東南アジアなど13カ国
- ・輸出量は、2017年の輸出開始から、毎年、前年比150%～200%の伸びを示す。
- ・本コンソーシアムは但馬牛等の出荷生産者(120農家)が本事業の推進母体となっている。

### 【課題】

- ①EUが要求する動物福祉に配慮した家畜の取扱いの周知・徹底。
- ②施設の認定基準として定められた懸垂放血により増加した血斑の低減。
- ③コロナ禍により低迷したレストラン、ホテルにおける需要回復。

## 2. 輸出事業計画の取組内容

- ①動物福祉に係る頭絡の装着率の向上のため、出荷生産者を個別指導
- ②血斑発生率の低減のため、と畜に係る施設等のハード面、手法・人員配置等のソフト面を再検討
- ③海外の需要喚起のため、神戸ビーフのプロモーションによる魅力を情報発信

### アメリカ、オランダにおける神戸ビーフのプロモーション

アメリカ(ロサンゼルス)とオランダ(アムステルダム、ノッテルダム)の現地レストランなどを会場に、神戸ビーフの主要部位(ロース、サーロイン)以外のセカンダリーカットの料理を提供し、プロモーションを行った。

地理的表示(GI)保護制度に登録された神戸ビーフの歴史や美味しさについてなどもアナウンスし、食材としてのストーリーも丁寧に伝え、神戸ビーフの魅力をプロモーションした。

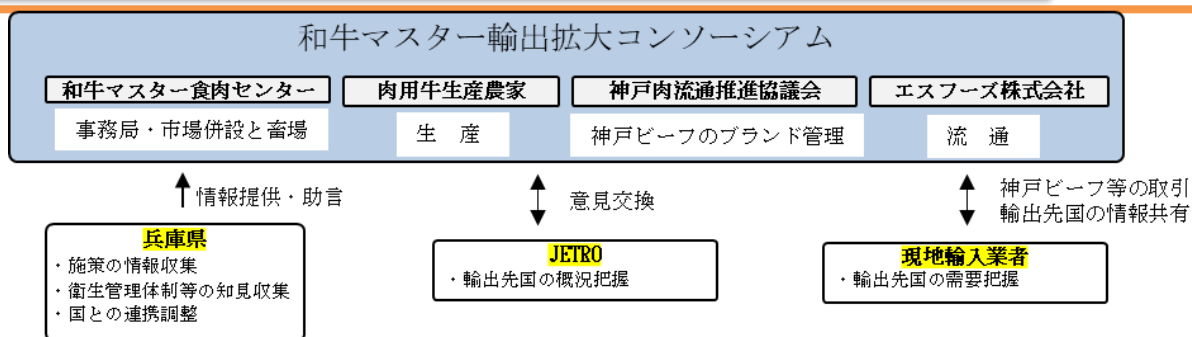


オランダでのプロモーションの様子



セカンダリー部位を使ったタルタル

## 3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



## 4. 輸出目標額

### (1)アメリカ・EU

|         | 現状<br>(2021年) | 目標年<br>(2025年) |
|---------|---------------|----------------|
| 輸出額(千円) | 3,156,325     | 5,588,463      |
| 輸出量 (t) | 355           | 625            |

### (2)シンガポール、カナダ、香港、台湾、タイ、マカオ、ミャンマー、フィリピン、ベトナム、オーストラリア、ニュージーランド

|         | 現状<br>(2021年) | 目標年<br>(2025年) |
|---------|---------------|----------------|
| 輸出額(千円) | 2,035,759     | 2,997,655      |
| 輸出量 (t) | 374           | 540            |